# 日本の農業、食、未来を考えるシンポジウム

## 種苗法改定反対！自家採種の権利を守ろう！

### 日本豊受自然農

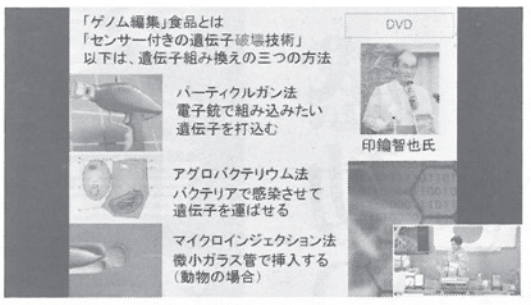
## 学校給食、有機無農薬に

### 食べたものが自分を作る

今や日本農業は大きな曲がり角に立たされ、食を脅かすことが噴出している。それは種苗法改定、遺伝子組み換え、ゲノム編集が起因となっている。このような問題、今後どのようになっていくのか。それを分かり易く伝えたシンポジウムが開催された。それは日本豊受自然農主催の「日本の農業、食、未来を考えるシンポジウム」だ。種苗法改定に反対する声を上げている識者がそれぞれの立場から取り上げ、自家採種の権利を守ろうと呼びかけ「食べたものが自分を作る」として遺伝子組み換え、ゲノム編集、種苗法改定反対の声があがった。その解決策のひとつとして学校給食の有機無農薬に変える重要性とその動きについても報告された。

基調講演を行う由井代表

日本豊受自然農は、様々な病気は、農薬、化学肥料、さらに遺伝子組み換え、ゲノム編集等、現代農法にあるとし、自然農を静岡県函南、北海道洞爺において自家採種をしながら色々な作物を生産、加工等を行っている。



由井代表

その豊受自然農が危惧しているのが「種苗法改定」だ。自家採種が出来なくなるのではという不安が高まり、多くの国民が色々な病気になるのではと危機感が募らせている。

中井名誉教授

そのような中で開催された緊急シンポジウム。オンラインでの参加者を含めると1150名の人々が参加。関心の高さを示した。

記念撮影

山田正彦氏

シンポジウムは、中井弘和静岡大学名誉教授が「種苗法を越えていのち、暮らしを守る農業へ」、種苗法改定反対の急先鋒に立つ山田正彦弁護士・元農林水産大臣が「今、皆さんに知って頂きたい大切な話」、杉山敦子「日本の種子を守る会」事務局が「デトックス・プロジェクト・ジャパン（DPT）」および、食べもの変えたいママプロジェクト「Moms Across Japan」の活動について、中野麻美変える会会員・CHhom（日本ホメオパシー学校学生）が「世田谷区の学校給食を有機無農薬に変える会」、高野弘之豊受クリニック院長が「新型コロナ問題」「経済崩壊からワクチン強制接種問題まで」、さらに豊受自然農の大脇達也氏、横田美沙さんらが豊受自然農の魅力や自家採種、安心・安全を当たり前に比べる時代へについて、都築明美さんは日本宇迦魂種苗株式会社設立について、それぞれ講演した。

高野医師

そして日本豊受自然農の由井寅子代表は基調講演「自家採種での自然農、腸を健康にする伝統食が日本を救う～知られざるゲノム編集技術の闇～」と題して行った。

世田谷区の学校給食を有機無農薬に変える会の活動について話す中野麻美さん

都築明美さん

由井代表は自家採種を禁止する種苗法「改定」にNO！署名活動推進中として講演に入った。

ゲノム編集食品は遺伝子を破壊する技術であることやEUでは禁止されているものが日本では安全性も問われず申告の義務もない点などに触れ本当にこういうものを食べて大丈夫なのか？と疑問を投げかけ、ゲノム編集された不自然な動物や作物の画像を表示しながらそれぞれの問題点について指摘し「自然ではない農業や食は土地や人体への深刻な影響もさることながら、科学でもほとんど未知である遺伝子の神聖な命の領域を人間が編集し、いじくり回すことは傲慢ではないか」と語った。また、由井代表は、自然農を行っている百姓にとって、在来種、固定種の作物が、遺伝子組み換えやゲノム編集された種にいつの間にかウイルスのように汚染してしまうことも非常に大きな問題と指摘。さらに種子がグローバルな企業に独占されると、海外で大きな問題となっているように、これまでの多様性があった私達の在来種、自家採種などの種が徐々に失われ、少数の人為的に操作された非自然な種へと変わっていってしまい、地域における種の多様性が失われてしまうことも由々しき問題とし、遺伝子が異常になったらどうなるかを長崎の被爆3世の親から生まれた子供のケースを例に紹介した。

驚いたことに脾臓がない奇形で生まれ、心臓の単心室があり、肺と心臓を繋ぐステントが入れられているという。

由井代表は「この子がZENNホメオパシーで心臓、腎臓、腸の機能が上がり、数値が改善、血液が綺麗になってステントの詰まりがなくなり、体温調節の弱さから毎年熱中症になっていたものが今年はならなかったという良い報告が届きました」と語りながら「遺伝子が異常になることの問題についてこの子のケースを通して皆に教えてくれた」と思うと語り、この子に感謝の気持ちを伝えたと言う。

最後にアルゼンチンの若者のバンドが遺伝子組み換えに対してNOを突き付けるメッセージをロックに乗せた音楽が紹介され、由井代表は「大事なことは『食べたものが自分を作る』ということ」と結んだ。

## 魂、心、体の栄養

### パネルディスカッション

最後にパネルディスカッションが行われ、基調講演を行った方々が感想を述べた。

**原村監督** 非常に素晴らしい一日であった。農業の現場を見てきて感じたことが、このシンポジウムの内容とピッタリ合うものであったと感じている。ゲノム編集の問題に象徴されている。地球のさまざまな生き物が巧妙に働き合い、私たち人間も生かされている。その思いで農業を考えていかないといけないと感じている。

**中井先生** 何もやっていない人がわかったように、人のことを否定をする、そうかと思うと今の日本の状況などは、まったく無関心で世界の普通の状況からも外れている、というところも私たちは気づけていない。

日本はヨーロッパの何百倍の基準の農薬をつかっている。遺伝子組み換え作物も一番食べているという情報もある。今日改めて私が気づかされたことは、私自身の霊性を高めないといけない。これからも精進をして、すこしでも霊性をたかめて、種苗法改定反対にもかかわっていきたい。

**山田弁護士・元農林水産大臣** 今日、豊受自然農・由井先生がこのシンポジウムを企画してくれたこと本当にありがたい。今回の種苗法改定がどういうことを意味するか。まさに種苗法改定で日本の農業はどうなっていくか、種子、種苗問題をしっかりと見ていただいて、「タネは誰のもの」各地で自主上映会をやっていただければありがたい。学校給食を有機にしよう、ズームにて参加してほしい。

**高野医師** 子どもたちが病みかねないような食べ方をしている。感染を防ぐための簡易給食。明らかに栄養を考えられていない。肝心なところがおざなりになっている。種苗法の件も同様で多くのみなさんが関心をもって声をあげていかないといけない。薬なども諸外国では問題なものが、日本ではOKとなっている。皆が気づいて声を上げないといけないと感じる。霊性を上げていくことも重要だと思う。

**日本人頑張れ！**

**由井代表** 何が自然で何が大事なことか、三位一体。魂、心、体で生きているから、魂の栄養、心の栄養、体の栄養、この3つがあって初めて生きられる。どう生きたらよいか、あなたらしく、個体が個体らしく、多様性をもって、それを尊敬し、それを認めてあげ、自分自身を生きればいい。心がおだやかにでありますように、心が幸せでありますように、心から願います。日本人頑張れ！